

# 「学力向上ポートフォリオ(小学校版)」

## 学力向上目標

- デジタル読解力及び情報活用能力を高める。
  - ・調べたいことを調べたいときに調べることができるような技能と環境の整備。「3年生からタイピング」「いつでもそばにいつでも使えるタブレット」の実現。
- 思考力・判断力・表現力（発信力）を高める。
  - ・さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業の実践。よい授業に関するアンケート【因子④ 児童生徒の活動】のポイントを上平均以上にする。
- 主体的に学習に取り組む態度を育てる。
  - ・ゆめをもつことにより、意欲的に学習に取り組む児童を育成する。さいたま市学習状況調査【将来に関する意識】における「将来の夢や目標をもっていますか。」の肯定的な回答の割合を9割以上にする。
  - ・「めあて」が明確に示され、児童が見通しをもって主体的に取り組める授業の実践。よい授業アンケートにおける「先生が授業のめあてや目標をわかりやすく示してくれる」のポイントを上平均以上にする。
  - ・児童が自分の変容を実感できる国語授業の工夫改善。さいたま市学習状況調査【学習に関する関心・意欲・態度】における「国語の勉強は好きですか。」の肯定的な回答の割合を令和2年度の値より5pt向上させる。

## 具体的な手立て

- ①朝学習、授業時間、家庭学習等において、ドリルパークに取り組む時間を積極的に設定し、多くの問題に意欲的に取り組めるようにする。
- ②ミライシードを用いた意見交流型授業の実現。
- ③学校課題研究「体育・保健」とICTの融合。動画機能を活用して動きの高まりを実感できる授業の実践。
- ④子どもが読書に親しみ、読書量を増やすための図書館経営を行う。読書タイム、読み聞かせ、キャンペーン、図書を選定、明るい図書館等。
- ⑤子どものゆめを育むための教育課程の再編成。コミュニティ・スクール実施校としての強みを生かした地域と連携した教材の開発。

## 結果

- ・学校評価「授業中など、タブレットを上手に使うことができている。」に対する児童の肯定的な回答の割合が91%であった。エバンジェリスト教員を中心に研修を進め、教員・児童のタブレット操作に関する技能を高めることができた。
- ・市学習状況調査の結果から、「授業の内容はよく分かる」に対する肯定的な回答の割合は高いが、「(各教科の)勉強が好き」に対する肯定的な回答の割合が低い。以前から継続してみられる本校の傾向である。

## 今年度の振り返り・次年度に向けて

今年度高まったタブレット操作に関する技能を土台にして、「授業の内容はよく分かるが、勉強は好きではない」という本校の課題の改善に取り組む。「自らの興味・関心、課題に応じた学び」「他者と関わり合いながら自らの学びを深める学び」を児童ができるようにする。そのために必要なリテラシーを向上させるとともに、新しい学習スタイル（＝見沼小アクティブラーニングスタンダード）を確立させる。